

## 第1回 金沢市都市計画マスタープラン策定委員会 議事要旨

日時：平成29年8月2日(水) 10:00～12:00

場所：金沢市役所 本庁舎7階 第3委員会室

### 〔出席委員〕 (○印：委員長)

○ 金沢大学	名誉教授	川上 光彦
金沢工業大学	教授	川崎 寧史
金沢大学	教授	高山 純一
金沢市農業協同組合	常務理事	辰島 幹博
金沢商工会議所	都市問題委員長	玉田 善明
北陸学院大学	教授	俵 希實
金沢美術工芸大学	教授	鰐 隆弘
金沢大学	准教授	西野 辰哉
金沢市町会連合会	副会長	西村 信彦
公益社団法人石川県バス協会	副会長	宮岸 武司
金沢市校下婦人会連絡協議会	副会長	本谷 悦子
公募委員		黒崎 敏男
公募委員		山根 ひとみ
国土交通省金沢河川国道事務所	副所長	澤山 雅則
石川県土木部	技監	松田 洋一郎 (代理出席)
石川県農林水産部	次長	新谷 和幸 (代理出席)

### 〔事務局〕

金沢市 都市整備局 都市計画課

敬称略

# 議 事 要 旨

## 1 開会あいさつ

都市整備局長)「金沢市集約都市形成計画」との整合性を図りながら、10年後を見据え、賑わいを維持しつつ、まちづくりの土台を作っていきたい。

## 2 委員のご紹介

## 3 委員長選出

全会一致で、川上委員が委員長に選出。

委員長)今回は「金沢市集約都市形成計画」を反映させた形での改定となる。金沢市は都市計画において注目されている都市でもあり、十分な審議を尽くし、内容のある計画としたい。

## 4 金沢市都市計画マスタープラン改定について

### ・計画策定にあたって

事務局)計画の概要、既定計画における視点・課題等、既定計画策定以降の都市づくりの取り組みの検証、上位計画(世界の「交流拠点都市金沢」をめざして)の概要、時代の潮流など、資料1(序章)の内容について説明。

委員)序-2ページにある「市街地」の定義は何か。

事務局)市街化区域を意味している。

委員)仮に、公共交通を郊外に拡大することがあれば、市街化区域も広げる可能性はあるのか。

事務局)「金沢市集約都市形成計画」では公共交通の利便性の高い地域への居住や都市機能の誘導を考えている。人口減少の流れの中で、積極的に新たな居住地を設けることは考えていない。

委員)「世界都市金沢」の実現ということで、駅西にホテルが建設されるが、世界

の富裕層を呼び込むためには、世界的なハイグレードホテルがさらに必要ではないか。

事務局) 新しいホテルの建設計画は現在 8 つあるが、一般的なビジネスホテルよりもグレードの高いものであると聞いている。

委員) 序-6 ページに、公共公益施設整備の検証として、「金沢プール」の開場や「石川県立図書館」、「金沢美術工芸大学」の移転について触れているが、いずれも公共交通の利便性を考えると、それほど便利な場所にはない。将来大きな施設を計画する際に、考え方が読み取れるようにするべきである。これらの施設について、既定計画との整合性を検証してはどうか。

事務局) 新しく作る施設については、公共交通とリンクさせることが理想であるが、まとまった用地が適地に確保できるかという難しい面もある。

委員長) 現在進行している計画が、方針と整合しているのか疑問であることはわかる。多少問題があっても、計画として認めざるを得ない面がある。今後 20 年については、そのようなものは出てこないと思う。将来的な施設には反映されるよう考えていきたい。

委員) コンパクトシティの観点から、都市交通網について議論すべきではないか。

委員) 都市計画マスタープランは 20 年先を見据える中で、10 年スパンで改定してきており、どこまで書き込めるかは問題である。新しい交通システムについても、提言をまとめているが、時代が大きく変化する可能性もある。都市がどうあるべきか、時代に応じて検討をしていく必要がある。

委員) 金沢駅西開発協議会でも、クルーズ船の話題が挙がっている。10 年後程度であれば目に見えているので、一部だけでも対応を考えていかなければならないのではないか。

委員 長) 交通については別途戦略を立てており、それを反映した形になる。10年後ということで、夢物語でなくある程度現実を踏まえた内容になる。

事務局) 交通は重要なテーマであると考えている。「金沢市集約都市形成計画」の図面に記載があるが、公共交通重要路線を維持することが柱となる。まずは、金沢市全体の交通網の幹をしっかりとしていかななくてはならない。公共交通の種別の議論については、別会議で検討を行っている。

委員) 幹の話があったが、都心部に集中している。環状も重要なのではないか。

委員 長) 「金沢市集約都市形成計画」では、放射状の公共交通重要路線を軸とし、その沿線の居住誘導区域内であれば、車がなくても、ある程度生活できるという方向性を打ち出している。

#### ・都市づくりの視点と課題

事務局) 今回の改定にあたっての視点、今後の改定にあたっての課題など、資料1(第1章)の内容について説明。

委員) 金沢ブランドの構築が必要ではないか。これによって、産業構造も変わってくると考える。

委員 長) 上位計画(世界の「交流拠点都市金沢」をめざして)には、触れられているのか。

事務局) (上位計画に)記述があり、念頭において検討をしたい。

委員) 富裕層の誘客のため、積極的に検討してほしい。

委員 長) 品格を損なわない範囲で、必要に応じて盛り込まれるものとなる。

委員) 観光バス駐車場の整備という視点を加えてほしい。これまではあまり考えられてこなかったように思う。現状では不足している。今後も都心軸にホテルが増えるが、バスを停めるところがない。

事務局) 重要な視点だと思う。ホテル建設の説明会の中でも、国道でのバス乗降が懸念される声が上がっている。ホテルの集客のコンセプトとしては、公共交通利用がメインではある。また、石川県合同庁舎の横の敷地を暫定的に利用している。今後の検討課題としたい。

委員長) 全国的な傾向として、施設と駐車場、車の取り扱いを考慮した制度が不十分である。

委員) パーク・アンド・バスライドをもっと浸透させるべきではないか。都心へのバスの乗り入れは限定するなど、踏み込んだ考え方を進めるべきではないか。

事務局) 市では、都心軸に車両を入れないために、駐車場の付置義務を緩和し、公共交通の利用を促進する取組を、ホテル事業者と協定を締結して行っている。

委員) 中山間地域では、農業経営が立ち行かず、維持・自然保全も困難を期している。国土を保全するという観点からも対策が必要であると考え。具体的な対策を考えてほしい。

委員) 既定計画 P34 の将来の都市像の骨格が大きく変わることはないと思う。課題と対応をより丁寧に示していくとよいと考える。南町のホテル、マンションに関しても、十分に駐車場が確保されておらず、交通混雑が予想されている。観光客増加によって駅周辺は大きく変容しており、市民と観光客の両立は難しいが、今後も丁寧に議論していくべきである。

委員長) 京都では、観光客を減らしたいという住民意向を踏まえた取り組みがなされているようである。

委員) 1-2 ページに「金沢港の整備充実と臨港地区の基盤整備」、「集約型都市構造の実現に向けた計画的な基盤整備の推進」など、基盤整備と記載されているが、何を意味しているのか。

事務局) 表現を工夫したい。

委員) 1-2 ページに、「金沢市公共施設等総合管理計画」に基づく適正な維持管理の推進」とあるが、計画との連携が課題である。全国的にも公共施設等総合管理計画と都市計画マスタープランとの整合がなされていないことが多く、どのように担保していくかが重要である。

事務局) ご指摘のとおりだと思う。公共施設等総合管理計画では、個別の施設に関する方針を整理するところまでは策定できていない。基本的な考え方の提示を行いたい。

委員長) 今回の改訂の課題の一つとして、地域別構想を具体化することが挙げられると思う。

委員) 山が荒れていると感じている。有害鳥獣の対策が必要ではないか。

委員) 地域コミュニティの取り扱いが課題であると感じている。

委員) 1-1 ページで、課題整理のための視点として、「新たな産業構造」が追加されているが、具体的にはどのような内容を想定されているのか。

事務局) 1つは、新幹線開業後の金沢港をどう活かすかがテーマとしてある。人の交流と物流の側面がある。今後は港に主眼を当てていきたい。2つ目は、一次産業としての農業の保全、農業的土地利用を守ることによる自然、環境の保全を考えている。

委員長) 課題のカテゴリにある、第1次産業、第2次産業、第3次産業という表現はそぐわないため、修正したほうがよい。

委員) 中山間地等については、他市町も同様な課題を抱えているので、ぜひ検討してほしい。

#### ・今後のスケジュール

事務局) 今後のスケジュールについて説明。

委員長) 最後に気づいた点として、既定計画の中では、中心市街地の整備を重点としていたが、これに対する評価や今後の展望に関する記載がなされておらず、課題に加えてはどうか。また、歴史的なまちなみや景観、密集市街地の対応、都心軸についても、強く打ち出していく必要があるのではないか。

## 5 閉会

以上